

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月28日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①新たな教育課程を着実に実施するとともに検証を行い、令和4年度からの教育課程を編成、実施する。</p> <p>②生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	<p>①来年度より全学年で実施する新教育課程での指導と評価の一体化を着実に進め、学校として標準化を図る。</p> <p>②一人一台端末を用いた授業の展開方法や、ICTを活用した教材などを情報収集して整理し、職員で共有・活用する ②放課後や長期休業中の補習や講習の講座の実施、教科会や教員研修の充実を図る。</p>	<p>①各教科・科目において、学習指導要領に基づいた指導と評価の計画を作成し、寒川高校としての標準的方策を共有する。</p> <p>②ICTの特性を活かした教材を研究し、学校全体での共有化を図るとともに、生徒からのアンケートなどをもとに授業改善を行う。 ②各学年で、生徒のニーズに応じた講座等を実施するとともに、教員研修講座を開催し、スキルアップや情報共有を行う。</p>	<p>①各教科・科目で、標準的な方策が作成・共有できたか。</p> <p>②教材の研究結果や、授業の改善点などの情報を共有できたか。 ②生徒のニーズに応じた講座等を実施できたか。また、教員研修を通じて、生徒に還元できる教材等を開発できたか。意識の向上が見られたか。</p>	<p>①指導と評価の計画に基づき、各学期の評価を行った。また、令和6年度の指導と評価の計画を策定した。</p> <p>②11月に研究授業を行い、校内での情報共有を図った。アンケートの結果を分析し、反省と、改善点を協議した。 ②6講座を開設し、1年生32名、2年生28名の生徒が参加した。また、職員研修でICTの活用方法や教材研究の結果の共有をとスキルアップを図った。</p>	<p>①研究授業や生徒による授業評価アンケートで、各項目の肯定的な回答率を増やすよう、指導と評価の計画を引き続き検討改善する。</p> <p>②研究授業や研修で共有した情報をもとに、一人一台端末等によるICTを活用した授業展開をさらに進める。 ②長期休業中に生徒の希望する講座の開設を引き続き行っていく。また、ICTの利活用を含めた教員研修会の充実を図り、さらなる授業力のスキルアップや授業への活用事例を増やし、共有していく。</p>	<p>①②教員が準備したスライド等の教材への評価は高いが、生徒自身が自ら学習に取り組む姿勢についての自己評価が低い。</p> <p>②小中学校では一人一台端末を貸与している。端末の所有率が60%と低く、全生徒に貸し出す台数が確保できないのであれば、GIGAスクール構想の実現は難しいのではないかと。</p>	<p>①研究授業の成果として、教材の標準化や指導の工夫改善に取り組むことができた。これらを踏まえて、生徒自身が学習に取り組む意欲を高められるような指導を目指す。</p> <p>②ICTの活用については少しずつ授業に浸透している。積極的な活用の実践事例を増やすためにも、職員が積極的に取り組む授業研究を進めたい。</p>	<p>①学期ごとの生徒アンケートのほかに、一定期間ごとに生徒の学習に対する意識を知るための調査を実施するなど、生徒の実態をより深く知る方法を研究する。</p> <p>②外部講師を招いての研修会を実施するほか、校内での実践事例の情報交換会を設定するなど、OJTを通じたスキルアップにより、授業研究の質を高め深化を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①基本的生活習慣を確立させ、規範意識を醸成するとともに、安心して学校生活を送れるように生徒の心のサポートを行う。</p> <p>②部活動への加入率を高め、学校全体を活性化するとともに、地域社会に貢献できる人間力を育む。</p>	<p>①社会の一員として必要な高校生として望ましいルールやマナーの定着を図り、生徒の実情を把握し、生徒個々に応じた組織的支援体制をさらに強化する。</p> <p>②新入生歓迎会や部活動体験会を開き、部活動への加入を促進する。また、部活動の環境を充実させるため、活動に必要な環境を整備するとともに主体的な取組を促す。</p>	<p>①「生徒支援の指針」と「生徒対応の手引き」を全教職員での共通認識を図り、SSEの取り組みや交流当番、下校指導などを通じて、個別理解を推進し、問題行動の未然防止を図る。</p> <p>②新入生歓迎会において生徒代表から各部の魅力発信させる。部活動体験会で新入生全員に部活動を体験させる機会を設け、部活動への加入を促進する。 ②部活動の予算を最大限に生かし、環境を充実させる。</p>	<p>①生徒の問題行動の発生件数を減少させることができたか。</p> <p>②新入生の部活動加入率40%以上かつ、退部率を10%以内に抑えられたか。 ②3つ以上の部活動で県大会出場以上の実績を残せたか。</p>	<p>①毎年全体の生徒数が減少している背景はあるが、前年度と比較して問題行動を減少させることができた。2月21日までで54件。（昨年度は67件）</p> <p>②部活動加入率は2021年度32%、2022年度34.5%、今年度は36%と推移している。ただし、1年生の加入率は29.5%であった。また、退部率は5.5%で目標を達成した。 ②卓球部で3人、陸上競技部で5人の生徒が県大会に出場し、ボクシング部の生徒が関東高等学校選抜大会に出場した。</p>	<p>①これからも、「生徒支援の指針」と「生徒対応の手引き」を全教職員で共通理解して指導するとともに、SSEを活用して、生徒と積極的にコミュニケーションをとりながら、下校指導や交流当番などを行い、問題行動の未然防止を図る。</p> <p>②全体の加入率はやや伸び、退部率も減少したが、さらに退部率を抑え、部活動を活性化させていく。また、運動部の加入率が13%と少ないので、どのように伸ばしていくかが課題である。さらに、次年度は1年生の加入率を上げるために、4月の入学式後に行う部活動体験の方法を改善していく。 ②3つ以上の部活動で県大会出場以上の実績を残せるよう活性化させる。</p>	<p>①交通安全指導や下校指導でPTAとの連携も予防的対応の一つとして効果があることが考えられる。</p> <p>②全国の高校生全体でも部活動の加入が伸びていないようだが、寒川高校で部活動に入らない理由は何か考え、何かニーズを引き出す対策を講じたほうが良いのではないかと。または、部活動と同等の教育効果のある取り組みをしてはどうか。</p>	<p>①交流当番や下校指導をはじめとしたきめ細かな生徒指導、SSE等の取組により問題行動の未然防止に取り組み、指導件数を減らすことができた。</p> <p>②全体の加入率はやや伸び、退部率も減少した。また、運動部の加入率が13%と少ないので、どのように伸ばしていくか、1年生の加入率をどれだけ上げることが課題である。 ②3つ以上の部活動で県大会出場以上の実績を残すことができた。今後、どのように活性化し維持していくか課題である。</p>	<p>①全職員で共通認識を持ちながら指導方法を改善し、組織的に指導、支援を行うことにより、生徒支援体制を強化していく。</p> <p>②生徒会活動としての各種委員会の活性化について検討するとともに、4月の入学式後に行う部活動体験の方法を改善していく。現在活動している部活動が充実したものになるよう支援していく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒に自己の在り方生き方を考えさせ、望ましい勤労観や職業観と主体的に進路を選択する能力を育成して、進路実現につなげる。	①生徒の希望や状況を把握し合意形成のもと、個々の適性に合った進路実現ができるよう細やかな進路指導・進路支援を実践する。  ②キャリア教育に係る外部の資源を有効に活用し、生徒の進路意識の向上を図る。 ②目標を持って進路実現できる生徒を育成する。	①校内の支援体制及び校外の支援機関とも連携し、進路指導に関わる支援の充実を図る。 ①求人票システムの導入を通じ、進路指導の効率化と生徒の進路選択の最適化を合わせて進められるよう、運営面での改善を図る。 誰でも対応できる進路指導体制を構築するとともに、事故防止に努める。  ②地元企業等と連携した本校独自のインターンシップをはじめとする体験活動や職場見学等を実施し、生徒の職業観を育成するとともに、1・2年次における生徒の進路意識の向上を図る。	①生徒が目的を持って進路を選択することができたか。進路未決定率を10%以内とすることができたか。 (昨年度9%) 適切な支援体制のもと、進路支援を行うことができたか。  ②生徒の多様な進路のニーズを踏まえ、本校独自のインターンシップ等の体験活動を企画・実施する。 令和4年度と比較し体験者数を増やすことができたか。	①2月28日現在卒業予定者204名のうち、進路未決定者は23名(11%)。この中には現在進路活動に取り組んでいる生徒もいるが目標値を達成できなかった。 ①求人票システムを導入し3600件超の求人情報を適切に処理した。従前の進路指導に対し効率化の側面において改善を図ることができた  ②夏季休業期間を中心に、地区インターンシップ2名、寒川高校インターンシップ18名、延べ20名の生徒がキャリア体験活動に参加した。	①進路未決定者の割合は令和4年度卒業生と比較して2ポイント増加してしまった。卒業後も進路相談等を行い、就職等の斡旋をする。 ①進路指導に関する事務手続きの効率化を一層進めるとともに、生徒の特性に応じた多様できめ細やかな進路支援に継続して取り組む。  ②キャリア体験活動とともに適性検査等に関連付けさせながら、生徒が望むべき未来の姿をより具体的に思い描くことができるように、進路支援の体系化を一層進めていく。	①事務手続きの効率化について一定の成果が得られている。  ②体験活動を重ねながら進路意識の向上を図ってほしい。	①3月22日時点での進路未決定率は9.8%となり10%以内に収めることができた。 今年度求人票処理システムを導入したが、進学指導に係る事務作業と指導の効率化も課題である。  ②地区インターンシップなどの効果的な運用を図ることで1・2学年の体験活動の選択肢を確保する。体験活動を通じて進路選択への意識付けの向上を図ることが課題である。	①引き続き、生徒の特性に応じたきめ細かな進路支援を行うとともに、進路指導に係る事務作業などの効率化を進めていく。  ②次年度は総合的な探究の時間の取組も踏まえ、学校外での体験活動を計画し、活動を通じて職業観の醸成と自分の適正などを考える機会とするとともに、進路選択について学ぶ機会とする。
4	地域等との協働	寒川町唯一の高等学校として、寒川町や近隣地域、小中学校の期待に応え、地域に親しまれ、地域とともにある学校づくりを進める。	①寒川高校の情報を中学生や保護者、地域に積極的に発信するとともに、町や地域のイベントへの生徒の参加や近隣の小中学校との交流を推進する。  ②広域避難場所として地域との連携を図り、町の防災体制、減災対策の一翼を担う。	①ホームページや学校案内を充実させるとともに、ツイッターを活用し、迅速な情報発信を行う。 ①町や地域と情報交換しながら、地域との交流やイベントに、生徒が参加する機会を増やす。  ②コロナ禍も緩和されるので、寒川町防災担当部署及び近隣自治会と連携方法を再構築する。	①ホームページの更新や、ツイッターでの情報発信を適切かつ速やかに行ったか。 ①町や地域のイベントへの参加、近隣の小中学校との交流機会が増えたか。  ②町や地域の防災訓練に参加し、町の防災対策に協力できたか。	①ホームページや行事等の様子を伝えるツイッターでの情報は、例年通り実施できた。 ①地域のイベントへの参加をはじめ、交流を実施することができた。隣接している小学校での演劇部による防犯教室、野球部による野球教室、合唱部によるハンドベルの演奏、写真部生徒による広報誌への作品参加等を行い、交流を図った。 ②1年生が2回、2年生が1回、学校周辺の地域清掃を実施した。	①来年度は、さらに在校生が減少する中、今後どのような活動ができるかが課題と考える。学校運営協議会の地域連携部会と連携しながら、地域との交流を進めていく必要がある。  ②コロナ禍以降、町や地域の防災訓練に協力ができていない。実施の際は参加・協力していく。 ②寒川町及び地域と連携をとりつつ広域避難所として協力体制を築いていく必要がある。	①陸上競技部による中高合同練習は、中学生だけでなく顧問にとっても良い刺激になった。今後も開催してほしい。 ①外部との関わりがもっとあるとよい。 ①防犯教室での関わりを小学校児童は楽しみにしており、高校生への憧れを持つ時間にもなっている。 ②避難訓練実施の際は積極的に参加・協力してほしい。	①ホームページやツイッターでの情報発信を迅速かつ適切に行い情報発信に努めた。 ①ボランティアや部活動で地域のイベント等に参加し、交流を図ることができた。  ②コロナ禍以降、町や地域の防災訓練に協力ができていない。今年度も防災訓練は寒川町の判断で実施できなかったが、自治会の意向を踏まえ、来年度はぜひ参加をしていきたい。 ②寒川町及び地域と連携をとりつつ広域避難所として協力体制を築いていく必要がある。	①今後も情報発信を適宜行うなど広報活動を推進していく。 ①学校運営協議会における地域連携部会の活性化を図り、生徒の学校外での活動を継続していく。  ②寒川町や自治会との協力体制を築いていく。 ②寒川町の防災担当部署と連携しつつ協力していく。
5	学校管理 学校運営	職員全体が学校運営上の課題を共有し、安全・安心な学校づくりに邁進するとともに、事故・不祥事防止の徹底を、より一層推進する。	①教員の働き方改革を推進するため、業務のスリム化、効率化に取り組み事故・不祥事防止に努める。  ②最終年度になる校舎耐震工事において、安全確保と教育環境の整備を図る。	①業務のスリム化に向けて総括教諭と相談しながら業務を見直す。  ②仮設校舎から東棟への移転に備え、生徒の動線の安全確保に必要な環境整備計画を立てる。	①業務のスリム化に向けて総括教諭と相談しながら業務を見直すことができたか。  ②冬季休業中、安全を確保した移転を実践するとともに、環境整備計画を実践できたか。	①来年度に向けてグループ業務の見直し及びグループ再編を検討した。また、職員が主体となった不祥事防止研修を定期的に行うことで、不祥事ゼロを目指した。 ②生徒の安全確保に努めながら耐震工事を進めるとともに、仮校舎から東棟へスムーズに引越しが完了できた。	①さらに業務内容の見直しや業務のスリム化を図るとともに、事故・不祥事防止に努めていく。  ②耐震工事後の施設や備品の老朽化対策を計画的に行う。	①今後も不祥事防止に努めてほしい。	①グループ業務の見直し及びグループ再編を行うことができた。また、職員が主体となった不祥事防止研修を定期的に行うことで、不祥事ゼロを達成した。 ②耐震工事は完了し、ハード面の安全性が高められた。校舎の外観もされイメージが。	①今後、職員減少が予想されるなか、さらに業務内容の見直しや業務のスリム化を図るとともに、事故・不祥事防止に努めていく。  ②老朽した施設や設備を計画的に整備していく。また、ICT環境のさらなる整備を行う。